

# 学びをひろげ、豊かな「生き方」をめざす技術・家庭科教育

## — 幼児との触れ合い学習を通して —

新学習指導要領では、「幼児との触れ合い及び、かかわり方の工夫」が必修となり、「幼児の発達の状況に応じたかかわり方を工夫し実践できるようにする」ことが求められている。これまでは、幼児とどのようにかかわったらよいか分からないまま、触れ合い体験に臨んでいた生徒も少なくなかった。

そこで、本研究では、これまで体験後の学習に力点を置いていた学習過程を見直し、事前学習に時間をかけることで、より幼児への理解を深め、かかわり方が工夫できる授業づくりに取り組んだ。

### 1. 生徒の実態

生徒の実態調査を行った結果（熊本市内6校の2、3年生を対象：792名）、約8割の生徒が「幼児が好き」と答えた。「幼児が好きではない」と答えた生徒の理由は、幼児とかかわった経験のなさや少なさによる「どう接してよいか分からない」というものと、「うるさい、言うことを聞かない、話を聞かない」などのように、幼児とのかかわりへの不安に起因しているものが多く見られた。

また、表1に示すように、生徒は、幼児との「触れ合い体験」に対して、様々な不安を持っていることが分かった。アンケートを個別に分析していくと、幼児とかかわる機会が少ない生徒ほど、幼児に対するイメージは良いものではなく、幼児とのかかわり方に対する不安も大きい傾向にあった。

表1「触れ合い体験」で、不安に思うこと

- ・突然、泣き出しそう。
- ・言うことを聞いてくれないかもしれない。
- ・本気で蹴られたら、どうしよう。
- ・おもちゃの取り合いを始めそう。
- ・話しかけても、逃げ出されそう。
- ・幼児が（幼児を）たたきそう。

### 2. 研究の仮説

「幼児との触れ合い体験」の事前に、問題解決的な学習を取り入れることで、生徒の不安を取り除き、主

体的に体験学習に臨むことで、幼児へのかかわり方（接し方や話し方、遊びなど）を工夫することができるであろう。

### 3. 研究の実際

#### (1) 指導計画の作成

学 習 内 容	評価の観点				時 間
	関	工	技	知	
幼児とのかかわり方を考えよう		○		○	4
幼児の生活に役立つものを作ろう	○		○		2
幼児と触れ合おう	○	○	○	○	2
触れ合い体験をまとめよう			○		2
（10時間取り扱い）					

#### (2) 授業実践の内容

##### ア 課題設定の工夫をする

生徒の実態アンケートによると、「触れ合い体験で不安に思うこと（表1）」の多くは、幼児とのかかわり方に関することであった。そこで、アンケートから、触れ合い体験において、生徒が不安に思う、起こり得る状況を場面想定課題に設定し、その際にどうかかわればよいかを考えるという、問題解決的な学習を展開した。

##### イ 生徒間のコミュニケーションを図る

幼児とのかかわりだけでなく、生徒間においてもコミュニケーションを図ることが授業内容を深めることにつながると考え、グループ活動を多く取り入れ

た。グループで課題を解決し、それをまとめて発表させた。そのことによって、様々な考えや意見があることに気付かせ、生徒間の認め合う雰囲気高めるとともに、話し合いや発表のスキルを習得させた。

<解決する>

各グループで、1つの課題を選び、その状況に応じて、どのようなかわり方ができるかを調べた。

(問題解決の手段)

本、インターネット、家族への質問、教科書、資料集、ノート

<発表する>

各グループで、まとめ方を工夫して発表した。

(発表方法)

広用紙・画用紙による発表、パソコンによるプレゼンテーション、ロールプレイング

<深める>

他のグループの発表を聞くことにより、幼児とかわるとき大切なポイントについて考え、グループで話し合った。その際、各自で考えたことを付箋紙に書き、その意見をグループで類型化して発表し、学びを共有した。

ウ 「触れ合い体験」への意欲を高める

実際に訪問する保育園の園長先生からのメッセージビデオを、生徒に視聴させた。生徒は、幼児とかわるとき大切なポイントを再確認し、保育園の様子を映像で知ることにより、「触れ合い体験」に対する意欲を高めた。

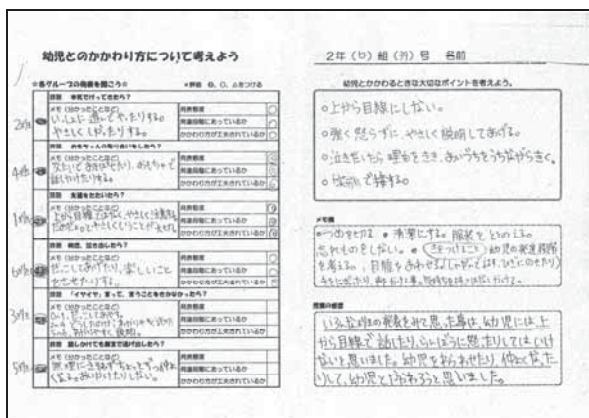


図1 ワークシート

(事前学習を終えての生徒の感想)

・幼児とかわるのは大変だと思った。でも、勇気を出して、優しく接して仲良くしたい。いきなりけられたり、泣き出したときの対処の仕方が分かって良かった。

・幼児との接し方がよく分かりました。実際の園長先生の話も、とてもためになりました。幼児に会ったら、たくさん話したり遊んであげたいと思いました。

(3) 授業実践のまとめ

触れ合い体験では、不安を感じていた生徒たちが、自分から幼児と積極的にかかわろうとする姿が見られた。体験後の感想やまとめからも、生徒がかかわり方を工夫しようとする姿勢が伺える。

また、遊びの内容が工夫されたことにより生徒の主體的に活動する姿だけでなく、幼児の笑顔も見られた。

4. 研究のまとめ

(1) 成果

①「幼児との触れ合い体験」の事前学習で、問題解決的な学習に取り組んだことにより、幼児の発達や幼児への接し方・話し方を理解し、意欲が高まり積極的な活動につながった。

②幼児との触れ合い学習を通して、思考力・判断力・表現力の向上のほか、生徒間のコミュニケーションも深めることができ、学びがひろがった。

(2) 課題

①豊かな「生き方」につなげるためには、人とよりよくなかかわる姿勢を持続させるための学習活動を、今後とも充実させる必要がある。

②「幼児との触れ合い体験」の指導計画を立てる際には、各学校の状況(学校の規模、地域の実態など)に応じて、実施時期や時間の配当などに工夫が必要である。

参考文献・参考Webページなど

- 1) 中学校学習指導要領 技術・家庭編(文部科学省)
- 2) 中学校学習指導要領解説 技術・家庭編(文部科学省)